

警察官を装った詐欺にご注意！

これまでポーランド国内においては偽警察官による詐欺が発生しており、日本人旅行者も被害に遭遇しています。類似の事件は、今後も発生する可能性がありますので、下記の事例等を参考にして、偽警察官の被害に遭わないよう十分注意して下さい。

(1) 犯行事例

- ① 地図を広げた外国人旅行者らしき人物(A)が話しかけてくる。
- ② これに応じていると、警察官と称する二人組(私服)が現れ、(偽造の)警察 ID を素早く見せた上で、同人物(A)が尋問を受ける。同人物(A)は、求めに応じて偽警察官に ID、現金やクレジットカードを見せ、暗証番号を伝える。偽警察官は、無線機やカードリーダー(携帯電話のような機器)を使い確認をとる。
- ③ 次に、偽警察官は被害者の邦人に対しても、ID 及び所持しているすべての現金及びクレジットカードの提示を求め、さらにクレジットカードの暗証番号を聞いてくる。正確な番号を言わないと警察署へ連れて行くと高圧的になる。
- ④ 偽警察官は、無線機やカードリーダーで確認をした後、現金及びカード類を返却するが、このうちの現金の一部(被害は一万円札が多い)、クレジットカード1~2枚を気づかれないように抜き取り、立ち去る。最初に質問をしてきた人物も立ち去る。
- ⑤ 数十分以内の間にその持ち去られたカードが不正使用される。

(※上記は一例であり、偽警官による詐欺行為の態様は多岐にわたります)

(2) 対応策

- ① 人通りの少ない道を歩く時は十分注意する。見知らぬ人物が近づいて来た場合には、可能な限り関わり合わないようにする。特に、人気のない場所には絶対について行かない。
- ② 警察官らしき者から路上で職務質問を受けた場合、まず、警察バッジ及び身分証を携帯しているかよく確認する(以下のサンプル参照)。

警察バッジ



警察官身分証 (表)



警察官身分証 (裏)



(ポーランドでは私服を着用し且つ普通車両に乗車した警察官が路上で職務質問を行う場合もあることから、適切な警察バッジや身分証の提示があった場合には、同警察官の指示に従ってください。通常の職務質問であれば、初めに旅券(パスポート)又は身分証の提示が求められます。その後、必要があると判断されれば、ポケットの中身を取り出すように指示される場合があります。)

- ③ 警察官が、個別にクレジットカードの提示を求め、カードの暗証番号を聞くことは絶対にありません。不審に感じた場合又は警察官が本物であるか偽物であるか判断がつかない場合には、「他の警察官にも立ち会ってもらおう」、「現地の日本大使館に連絡したい」等と主張し、毅然とした態度で静かに対処することが必要です。また、必要に応じて、周囲にいる人に助けを求めたり、その場からポーランドの緊急電話番号“112”番に通報して支援を受けるか(英語可)、大使館(+48-696-5000)にご連絡ください。

(※なお、警察官が本物であるか偽物であるか判断がつかない場合、「警察署へ連れて行く」などと言われても、誘拐事件等に遭う危険性もあることから安易に普通車両に乗り込むことはできるだけ避けてください。)



一般的な警察車両

- ④ クレジットカードを抜き取られる等の被害に遭遇した場合には、速やかにカードの停止措置を行うとともに警察へ通報(被害届の提出)を行ってください。